

**鶴見区地域子育て支援拠点事業
令和7年度重点目標評価結果・次年度重点目標**

事業実施期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日(3年度目/5か年度)
事業の実施者	社会福祉法人青い鳥
	鶴見区こども家庭支援課
事業目的	<p>市民が安心して子どもを産み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。</p> <p>【事業・施設運営の基本理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 鶴見区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営 2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に関わった運営 3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営 4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営 5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わることができる視点に立った運営 6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。 2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。

1 令和7年度重点目標の評価

令和7年度重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期からの継続的な支援と地域をつなぐを通して、安心して子育てできる地域づくりを推進していく。 2. 子育て家庭が地域で孤立することがないように、ネットワークで築いた関係を活かし、地域ぐるみで子育て支援体制の基盤強化を目指していく。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・産前産後の交流イベントの内容や周知方法を見直し、イベントの充実を図る。 ・家庭や地域での孤立感の解消のため、地域との連携イベントを検討する。 ・地域ケアプラザで「プレママプレパパの会」を継続開催し、地域の子育て資源や情報を伝える。 ・親と子のつどいの広場、保育園、一時保育事業者、地域ケアプラザ、療育センターとの連絡会を通じて、地域での困りごとや情報を共有し、より協力体制を深める。 ・図書館、国際交流ラウンジ、地域ケアプラザ、プレイパーク等とのイベント開催について検討する。 ・スタッフを地区担当制にし、より担当地域との協力体制を強化していく。 ・拠点の周知と地域とのつながりのため、ネットワークを活用したアウトリーチ事業を展開していく。 ・横浜子育てサポートシステム入会説明会においてアクセスが難しい地域でも開催を継続し、広く参加の機会を提供する。

取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩母親との交流を通して出産後の生活を具体的にイメージすることができ、妊娠期の不安軽減につながった。 ・連携イベントの実施により地域との接点が増え、参加者が地域とつながるきっかけづくりにつながった。 ・「つるみ子育て支え合いの会」を通じて地域の課題や情報を共有したことで関係機関の連携が深まり、地域課題に迅速かつ包括的に対応できる体制づくりが進んだ。 ・他機関連携イベントにより地域資源理解が深まり、地域との関係性構築が進んだ。 ・アウトリーチ事業を通じて拠点の認知が増え、地域の中で支援につながる機会の拡充につながった。 ・拠点にアクセスが難しい地域での開催を継続したことで、参加機会の拡充と制度周知の向上につながった。
取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期の交流イベントの周知方法を見直したが参加者数の増加には至らず、ニーズを踏まえた内容の再検討を行い、参加しやすい形へ改善していく。 ・父親の利用や関わりは一定程度見られるものの、気軽に参加できる交流や体験の機会はまだまだ十分とはいえず、父親支援のさらなる充実が求められている。 ・連携や周知の広がりは見られたものの、当事者同士が継続的につながり支え合えるピアサポートの仕組みをさらに充実させていくことが今後の課題である。

2 次年度重点目標

令和8年度重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 切れ目のない一体的な支援体制のもと、保護者の孤立防止と父親支援の強化を図り、居場所づくりの推進と参加機会の拡充、相談支援体制の整備を行う。 2. 関係機関とのネットワークを活かし、協働による事業の推進及び地域への理解促進に取り組む。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・父親が気軽に参加できる交流や体験型プログラムを企画し、仲間づくりや情報共有の機会を設ける。 ・関係機関との連携及び情報共有の強化を図り、継続支援につながる相談支援体制の整備を進める。 ・妊娠期から安心して拠点や地域につながる仕組みを整え、切れ目のない参加機会の拡充を図る。 ・関係機関と協働でピアサポート事業を実施し、当事者同士が交流できる機会を広げていく。 ・横浜子育てサポートシステムにおいて、地域の理解促進を図り、ネットワークを活かして提供会員の増加に向けた周知活動を強化する。

3 協働のプロセスの評価

①事業計画段階

		区	拠点	相互評価
1	自分たちが達成すべき大きな目的や理念についてよく話し合うことができましたか。	A	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	A	A	A
3	お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	A	A	A
4	子育て家庭や子育て支援に関わる市民のニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めることができましたか。	A	A	A
5	目指す拠点の姿に近づくためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	B	A	B
6	この事業の実施目的・目標や事業計画について、ホームページや通信等を使って市民に発信することができましたか。	A	A	A

②事業実施段階

		区	拠点	相互評価
1	率直な意見交換のもと、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A	A

3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	B	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	B	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	B	B	B
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A	A

③事業の振り返り段階

		区	拠点	相互評価
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できましたか。	B	B	B
2	子育て家庭や子育て支援に関わる市民が満足を得られたかどうかについて、アンケート調査や話し合いによって確認することができましたか。	A	A	A
3	これまでの取組経過を振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができましたか。	A	A	A

取組経過について振り返り、協働に必要な取組が出来ていたかを評価します。

評価基準

A よくできた B できた C あまりできなかった D まったくできなかった